

平成23年(2011年)10月14日発行

福岡県小中特別支援学校事務職員研究会

事務局 柳川市立大和中学校

TEL 0944-76-4121

FAX 0944-76-4122

発行人 鬼塚 信也

## 鬼塚新会長挨拶

本年度福事研の会長に就任いたしました鬼塚信也です。よろしくお願いいたします。

「東日本大震災」による被害は、私たちの想像をはるかに超えるほど大きく、多くの方が亡くなられ、未だ避難所生活を余儀なくされている方も大勢おられます。一日も早い、被災地の復興と福島原発の放射能汚染の収束を願わずにいられません。福事研としましても、被災県の事務研究会に、少しでもお役に立てればということで全事研を通じて義援金を送らせていただきました。7月に行われました全事研総会において、全国から寄せられた義援金の一部を被災県に渡されたとの報告がありました。

さて、本年度6月15日に開催いたしました福事研研究大会には、611名の参加がありました。講演会では、大阪大学大学院教授の小野田正利先生をお招きして、「モンスターペアレント論を超えて—学校と保護者のいい



関係づくり」と題してご講演をいただきました。学校事務職員にとっても大変関心の大きい内容で、ご好評をいただいたものと思っております。

7月に開催されました全事研鳥取大会には福岡県より73名（研究大会速報より）の参加がありました。私も行き帰りのJRや会場で多くの会員の方々をお見かけして、大変心強く感じました。鳥取大会の特集テーマが「教育課程の実践と学校事務」ということで、私は、当初「えっ、学校事務職員が教育課程の何を取り組むの?」と思っていましたが、第6分科会（鳥取支部）の研究発表を聞いて、合点がいきました。すなわち、「1. 教育課程は学校教育目標を達成するための全ての教育活動である。2. 事務職員が達成するのは学校教育目標である。3. 教育資源（人、物、金、情報）を使って学校教育目標を達成する。」という理論です。そしてこのことは、今私たちが共同実施の中で、「教育支援で何を取り組めばいいの?」と言う疑問を解決するヒントになるのではないかと思います。

福事研の今後の取り組みですが、12月14日の研究大会では1日日程で講演会と分科会を開催する予定です。現在、分科会の企画を研究特別委員会で進めているところです。会員の皆様のご期待に添えるよう頑張っておりますので、当日は是非ご参加下さい。最後になりましたが、実践発表をしていただく支部には大変お世話をお掛けしますが、よろしくお願いいたします。

## 第 13 回研究大会

本年度第 13 回研究大会が平成 23 年 6 月 15 日(水)に都久志会館大ホールで開催され、教育関係機関からの出席を含め多数の参加がありました。

開会行事の後、大阪大学大学院人間科学研究科教授の小野田正利先生から「モンスターペアレント論を超えて—学校と保護者のいい関係づくり—」との演題でお話をいただきました。講演の中で、今学校では、子どもとどう向き合うかという問題もさることながら、保護者や地域の方とどう関わっていったらいいかということが本当に深刻な実態になってきている。保護者や地域の方が様々に言ってくるには訳がある。大事な事柄は、その本音をどう読みとるかだと話されました。保護者の激しいクレームをモンスター扱いにしない。モンスターとは化け物とか怪物という意味なので言葉自体も使っていけない。モンスターという言葉を使っただけで、もう自分の中に相手に対する完全な拒絶の気持ちが生まれる。学校として取り得る措置は、保護者のエネルギーを分散して受け止めるシステムをつくること、担任が 100%受け止めるのではなく、学校全体で支える事が大事だと強調されました。講演全文は 3 月に発行予定の研究集録に掲載の予定です。



### 参加者の声(アンケートより)

- 職場全体で保護者の思いを受け止めていく必要を感じましたし、保護者からのクレームに対応している担任を支えていく必要があることを学びました。
- 見方、視点を変える大切さを痛感しました。対応の仕方、工夫がとても重要だと思いました。
- 問題の解決はできなくても保護者に対してはもちろん、教職員に対する気遣いはできると思いました。
- 保護者との関係づくりで、事務職員の果たす役割は大きいと思いました。



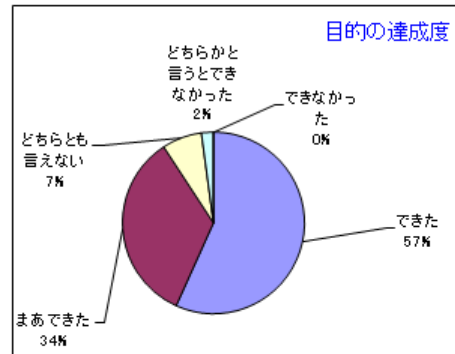
## 第13回研究大会アンケート集約

### どのような目的を持って参加しましたか(抜粋)

- ・日々今日のテーマとなる保護者対策で学校が大変です。少しでも改善策が見つければと思います。
- ・事務職員の立場で保護者とのつきあい方や対応を学ぶため
- ・クレームにどう対処したらよいかわかるとか何か新しい視点が聞けるのではないかと
- ・日々の職場では得ることができない知識や情報を知ることにより刺激を受け明日からの糧にしたい。

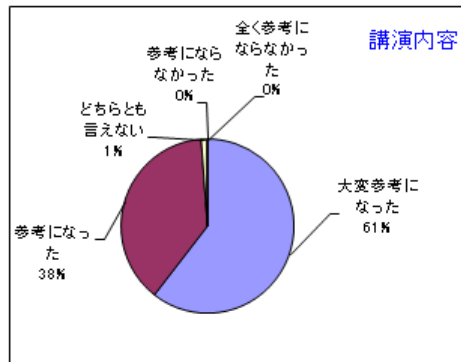
### 参加目的の達成度

1 できた	80	56.7%
2 まあできた	48	34.0%
3 どちらとも言えない	10	7.1%
4 どちらかと言うとできなかった	3	2.1%
5 できなかった	0	0.0%
計	141	



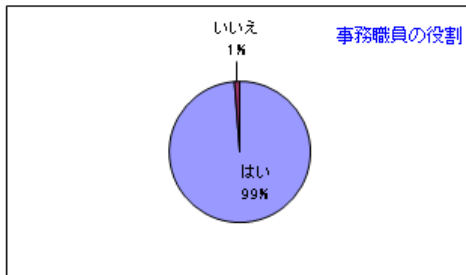
### 講演内容について

1 大変参考になった	104	60.5%
2 参考になった	66	38.4%
3 どちらとも言えない	2	1.2%
4 参考にならなかった	0	0.0%
5 全く参考にならなかった	0	0.0%
計	172	



### 学校と保護者の関係づくりについて事務職員の果たす役割があると思うか

1 はい	163	98.8%
2 いいえ	2	1.2%
計	165	



### 講演の中で、事務職員が果たす役割はどのような事と思うか(抜粋)

- ・多忙化する教員に代わって保護者・地域と連携する機会が増えてくるのではと思う
- ・具体的な役割は各校の実情で違うと思うが、大事なものは無関心、無関係でないことだと思う
- ・学校でのコーディネーターだと思う
- ・学校と保護者を緩やかにつなぐ潤滑油のようなこと

## 第43回全国公立小中学校事務研究大会（鳥取大会）研修報告書 ー第4分科会ー

筑後市立下妻小学校 主任主事 山下 三世子

第4分科会（島根支部）では、「動き出せ！新しい『学校づくり』へ！ー教育課程づくりへの参画を通してー」という研究テーマで報告がありました。教育課程の実施に必要な学校内外の人々の協働に、学校事務職員も従来の固定概念の枠を取り外し、新しい「学校づくり」に向けて動き出す意義について、島根県内各地での実践を検証・考察し、提案がありました。一つめは、大田市における財務活動を通じた連携・協働による教育支援の取り組みです。大田市では、学校財務と教育活動を事務職員がつなぐことにより、学校教育目標の達成の手だてとする実践をされていました。二つめに、東出雲町における学校・地域間連携を「学校づくり」に活かす取り組みの実践報告です。従前よりあった「学校支援地域本部」の活動に共同実施体「学校事務連絡会」が積極的に関わり、学校側の窓口として連絡調整や、予算面での関わり、情報発信を目的とした広報活動に取り組むことにより、学校と地域、学校と学校をつなぐ役割を担い、「学校づくり」に参画しているとのことでした。



その後、パネルディスカッションやグループディスカッションにより、『新しい学校づくり』とは？』『動き出す』とは？』という視点で討議がありました。学校づくりの一員として事務職員はどう動くか…そのためには、「学校事務職員として」という既存の概念から脱皮し、「スタッフの一員として」という感覚で考えることが大切だということでした。また、単数配置の職種である事務職員が、一人で学校を動かす行動をしようとするのは困難なことで、学校を動かし何かを変えようとするには、他者を巻き込むことが重要だということでした。そのためには、まず自分自身がどういう仕事の進め方をするタイプか分析し、併せて現在の上司や同僚もそれぞれのタイプかを見極め、その上で自分と対極のタイプの人とタグを組むことが重要なポイントであるとのことでした。誰もがスーパー事務職員になる必要はないので、気負いしすぎることなく、何でも一人でやってしまうとはせず、事務職員からのほんの一言の提案にすぎなくても、それが他者を巻き込むことで学校全体の自然な取り組みとなり、何となく定着していけば、それが新しい『学校づくり』につながるとのことでした。例えば学校予算を全教職員で考えることで、事務職員だけでなく他者を取り込んで、『学校づくり』へつながる。それが新しい『学校づくり』への第一歩です。『学校づくり』には他者を巻き込むことが大切だということがわかりました。

全事研大会への参加は、兵庫・神奈川・福岡・徳島に続き5回目でしたが、全国的な学校事務の動向や他都道府県の学校事務職員との交流はやはり大変貴重な経験となりました。また今年度の研究は、特に教育課程への参画が前面に押し出されており、更なる新しい動きを感じました。共同実施も定着してきた今、これからは、他者と「協働」していくことで、「子どもの豊かな育ちを支援する学校事務」職員となるべく実践を積みたいと思います。そしてまた今後、全事研の場においてその実践の交流ができればと思います。

最後に、このように大変有意義な研究会へ参加させていただいた「福岡県小中特別支援学校事務職員研究会」へお礼を申し上げます。ありがとうございました。



## 第 14 回九州各県事務研究会役員研修会

9月2日(金)熊本市水前寺共済会館において、表記の役員研修会が開催されました。台風12号による交通機関の影響が心配されましたが、全員無事に出席することができたようです。この研修会には、九州各県（沖縄を除く）から35名が参加し、初めに熊本県の宮本和明会長が挨拶され、各県自己紹介を経て議事に入りました。

本県からは鬼塚会長ら役員7名が出席し、今年度の研究の取り組みなどを報告しました。



### 議 事

- 1 各県の取組及び研究課題等について
- 2 各県の研究大会日程及び現状報告等について
- 3 当面する共通課題について
- 4 九州地区内研究会の今後の在り方について
- 5 第47回全国公立小中学校事務研究大会(平成27年度 熊本大会)について

議事の中で特に、佐賀県からは本年度から任用された管理職事務長の配置について、宮崎県からは学校事務職員の新規採用や人事問題について、大分県からは学校事務支援センターの話などが報告され、活発な意見交換や質疑が行われました。また第47回全事研(平成27年度 熊本大会)には各県一致して協力することを申し合わせました。

### 第14回研究大会のお知らせ

期日等 平成23年12月14日(水)10時15分開会 都久志会館

内 容 記念講演 日本大学文理学部 准教授 末富 芳 氏  
分科会

第1分科会 諸連携の実践(学校と地域、事務職員と大学)  
学校事務のあり方(専門職への方向性)

第2分科会 学校財務の課題と実践

第3分科会 セルフマネジメント研修

多数ご参加くださいますようお願いいたします。

## 総会報告

6月15日(水) 研究大会に先立ち、代議員(出席109名)による総会が開催されました。平成22年度各種報告、平成23年度役員選出や事業計画及び予算について審議され、原案どおり承認されました。本年度の役員・理事は次のとおりです。一年間よろしくお願ひします。また安永前会長はじめ、退任された役員・理事の皆様大変お疲れ様でした。深く感謝申し上げます。

平成23年度(2011年度) 役員・理事名簿

役職名	担当	氏名	所属校	
会長		鬼塚 信也	柳川市立大和中学校	
副会長	総務部	木村 正幸	北九州市立大蔵中学校	
副会長	研究部	武原 寛	大野城市立大野北小学校	
副会長	研究部	野村 明告	福岡市立長丘中学校	
副会長	広報部	三小田 迅人	八女市立南中学校	
事務局長		橋本 勉	田川市立弓削田小学校	
事務局次長		諸隈 智	宗像市立城山中学校	
事務局員		田代 浩一	那珂川町立那珂川中学校	
事務局員		森 聡	北九州市立千代小学校	
監事		東 尚嘉	豊前市立角田小学校	
監事		川口 浩二	芦屋町立芦屋中学校	
監事		西原 秀昭	久留米市立西牟田小学校	
理事	福岡市	研究部	赤木 明美	福岡市立多々良小学校
	北九州市	総務部	中川 隆雄	北九州市立門司海青小学校
	京築地区	研究部	進谷 孝範	築上町立築城小学校
	北九州地区	総務部	重久 宗美	直方市立植木小学校
	筑豊地区	広報部	野見山 博子	飯塚市立幸袋小学校
	福岡地区	広報部	北崎 教子	久山町立久山中学校
	北筑後地区	研究部	井上 千恵子	久留米市立金丸小学校
	南筑後地区	総務部	中園 千佳子	八女市立上妻小学校
全事研理事		木村 淳	宇美町立宇美東中学校	

### 編集後記

◇本年度の会報は広報部員3名で担当します。◇会報は年2回の発行予定です。◇できる限り福事研の活動や、県内外の事務職員情報を提供します。◇記事に対するご意見・要望をお寄せ下さい。◇3名全員が初めての担当です。皆様からのご支援をよろしくお願ひします。

広報部(三小田、野見山、北崎)